

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-127371

(43)Date of publication of application : 11.05.1999

(51)Int.CI.

H04N 5/225
H04N 5/91

(21)Application number : 09-287023 (71)Applicant : NIKON CORP

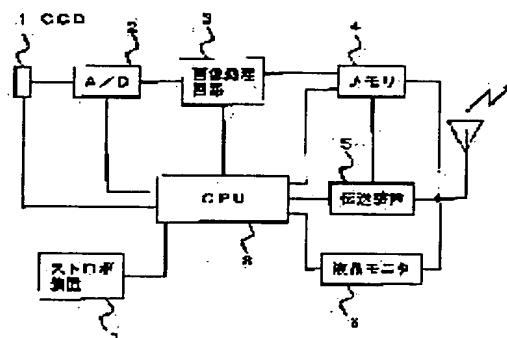
(22)Date of filing : 20.10.1997 (72)Inventor : YOKONUMA NORIKAZU
NAKAMURA MASANAGA

(54) CAMERA SYSTEM HAVING RED EYE CORRECTION FUNCTION

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent unnecessary red eye correction processing from being performed by associating an effect that image data of a red eye part of a photographic image is corrected with a photographic frame to record them and preventing the recorrection of the photographic frame that has record of a corrected effect from being performed.

SOLUTION: A CPU 8 reads luminance information and information that shows whether or not light generation of a strobe device 7 is performed at the time of photographing and generates red eye generation information that shows the existence of possibility that a red eye phenomenon takes place. Then, it mutually associates an image that is fetched by a CCD 1 with the red eye generation information and stores them in memory 4. Next, it decides about a selected frame whether or not image correction to eliminate a red eye is already done based on the existence of a correction flag, performs red eye correction image processing when it is not corrected, rewrites an image recorded on memory 4 to an image after the red eye correction processing, associates a correction flag with it and stores it in the memory 4. It reproduces the image after correction when it is corrected.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-127371

(43)公開日 平成11年(1999)5月11日

(51)Int.Cl.^b

H 04 N 5/225
5/91

識別記号

F I

H 04 N 5/225
5/91

F
J

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全5頁)

(21)出願番号 特願平9-287023

(22)出願日 平成9年(1997)10月20日

(71)出願人 000004112

株式会社ニコン
東京都千代田区丸の内3丁目2番3号

(72)発明者 横沼 則一

東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 株
式会社ニコン内

(72)発明者 中村 正永

東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 株
式会社ニコン内

(74)代理人 弁理士 永井 夏紀

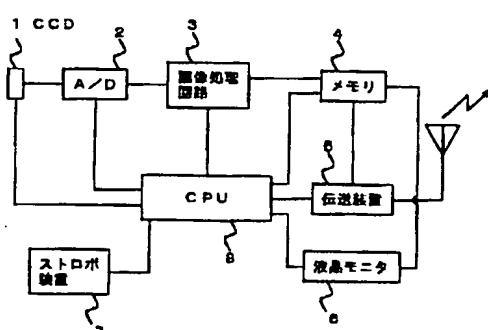
(54)【発明の名称】赤目修正機能付きカメラシステム

(57)【要約】

【課題】 不必要な赤目修正処理を行わない赤目修正機能付きカメラシステムを提供する。

【解決手段】 撮影画像の赤目部分の画像データを修正する画像処理回路3と、画像処理回路3による修正がされた旨を撮影駒と関連づけて記録するメモリ4とを備え、メモリ4に修正がされた旨の記録がある場合には、修正済の記録がある撮影駒について再度の修正を行わないようにした。

【図1】



【特許請求の範囲】

【請求項1】 撮影画像の赤目部分の画像データを修正する修正手段と、前記修正手段による修正がされた旨を撮影駒と関連づけて記録する記録手段とを備え、前記記録手段に修正がされた旨の記録がある場合には、修正済の記録がある撮影駒について前記修正手段による再度の修正を行わないようにしたことを特徴とする赤目修正機能付きカメラシステム。

【請求項2】 撮影に際して赤目現象が発生しうる撮影条件を検知する赤目発生条件検知手段を備え、前記赤目発生条件検知手段により赤目現象が発生しうる撮影条件での撮影であることが検知された撮影駒であって、前記記録手段に修正済の記録がされていない撮影駒のみについて前記修正手段による修正を行うようにしたことを特徴とする請求項1に記載の赤目修正機能付きカメラシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、赤目を修正する赤目修正機能付きカメラシステムに関する。 20

【0002】

【従来の技術】 赤目を修正する赤目修正機能付きカメラシステムが特開平2-64532号公報に開示されている。赤目現象とは、電子閃光装置を用いたカラー写真撮影において、人間の眼が赤色または金色に光って写ることをいう。この現象は、眼の瞳孔を通過した電子閃光装置の発光部の閃光が網膜部分で反射され、その反射光がフィルムに写って発生するものである。眼の網膜部分には毛細血管が多数存在し、その血液中のヘモグロビンが赤色であるので、その反射光が赤みを帯びて写るのである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 特開平2-64532号公報には、銀塩カメラにおいて赤目発生情報をフィルム上に磁気記録しておき、プリンタでプリントするときに、赤目情報に基づいてプリントした写真を選別するもの(第3図、第6図)、あるいは、赤目情報があるときに瞳をレーザで照射して赤目修正するもの(第7図)が開示されている。また、電子スチルカメラでも同様なことが行える旨の記載はあるが、具体的な開示がなく、したがって、赤目発生情報が記録されている駒に対して、一度赤目修正を行って画像を更新した後、その駒をプリントするたび、あるいはモニタに投影するたびに、いつも赤目修正処理が実行されてしまい、不合理である。

【0004】 本発明の目的は、不必要的赤目修正処理を行わない赤目修正機能付きカメラシステムを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 一実施の形態を示す図1

に対応づけて説明すると、請求項1に記載の発明は、撮影画像の赤目部分の画像データを修正する修正手段3、8と、修正手段3、8による修正がされた旨を撮影駒と関連づけて記録する記録手段4とを備え、記録手段4に修正がされた旨の記録がある場合には、修正済の記録がある撮影駒について修正手段3による再度の修正を行わないようにしたことにより上述の目的が達成される。請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の赤目修正機能付きカメラシステムにおいて、撮影に際して赤目現象が発生しうる撮影条件を検知する赤目発生条件検知手段8を備え、赤目発生条件検知手段8により赤目現象が発生しうる撮影条件での撮影であることが検知された撮影駒であって、記録手段4に修正済の記録がされていない撮影駒のみについて修正手段による修正を行うようにしたものである。

【0006】 なお、本発明の構成を説明する上記課題を解決するための手段の項では、本発明を分かり易くするために発明の実施の形態の図を用いたが、これにより本発明が実施の形態に限定されるものではない。

【0007】

【発明の実施の形態】 以下、図1～図4を用いて、本発明による赤目修正機能付きカメラの一実施の形態について説明する。

【0008】 図1において1は光電変換素子(CCD)を用いた画像センサ、2は画像センサ1から出力されたアナログ信号を増幅するとともに、その信号をデジタル信号に変換するA/Dコンバータ、3はデジタル化された画像信号を高画質化する各種の処理、例えば画像のγ変換等を行うとともに、画像信号に対する圧縮処理(例えばJPEG等の規格に即した処理)の他、後述する赤目修正画像処理を行う画像処理回路である。4は画像信号を記憶するメモリであり、例えばノート型パソコン用のコンピュータ等に挿脱されるICカード等が用いられる。5はメモリ4に蓄積された画像信号を外部プリンタ等に転送するための伝送装置、6は液晶モニタであり、画像データおよび画像データの属性情報(例えば、撮影条件等)を表示する。7は被写体の輝度が低い場合に撮影時に発光して被写体を照明するストロボ装置である。8はカメラ各部を制御する中央演算処理装置であり、画像センサ1、A/D変換器2、画像処理回路3、メモリ4、伝送装置5、液晶モニタ6およびストロボ装置7と接続されている。

【0009】 次に、本実施の形態のカメラシステムにおける画像記録時(撮影時)の動作について説明する。図2の画像記録時の動作は、画像記録モードが選択されているときにおいてレリーズスイッチ(不図示)がオンしたことを検出するとスタートし、ステップS1では輝度情報およびストロボ使用情報を読み込む。輝度情報は画像センサ1の出力信号に基づいて得られる撮影時における被写体の輝度を示す情報である。また、ストロボ使用

情報は撮影時にストロボ装置7による発光を行うか否かを示す情報である。続くステップS2ではステップS1で読み込んだ情報に基き、赤目現象が発生する可能性のある撮影条件か否かを判定する。

【0010】赤目現象はストロボ光に起因しているので、ストロボ装置7を使用しない撮影では発生しない。また、赤目現象は撮影環境が暗い場合に発生しやすいが、これは暗い場合に瞳孔の直径が大きくなるため、眼球内部へのストロボ光の入射光量および眼球内部からの反射光量のいずれも大きくなるからである。ステップS1では、このような赤目現象の発生する可能性を判定するのに必要な情報を読み込み、ステップS2において赤目現象の発生を予測するようにしたものである。

【0011】続いて、ステップS3では画像センサ1で取込んだ画像をメモリ4に記録し、ステップS4へ進む。ステップS4ではステップS2における判定結果に基づく赤目現象の発生の可能性の有無を示す赤目発生情報をメモリ4に記録し、シーケンスを終了する。赤目発生情報はメモリ4のアドレス内にステップS3で記録した画像と互いに関連づけて記録される。例えば、図3に示すように撮影された各画像は、ヘッダー情報001A, 001B, ...に基づいてグループ化される。図3では「001」の番号でグループ化された一の画像に関する記録情報を示している。

【0012】次に、画像再生時における動作について説明する。図4の画像再生時の動作は画像再生モードが選択されているときに実行される。図4のステップS11では操作者の入力操作に従って再生する画像の駒を選択し、ステップS12へ進む。ステップS12では選択された駒について、赤目を除去するための画像修正がすでにされているか否かを修正フラグの有無に基づき判断する。ステップS12において修正済と判定されればステップS17へ進み、未修正と判定されればステップS13へ進む。

【0013】ステップS13ではメモリ4から選択された駒についての赤目発生情報を読み込み、選択された駒について赤目が発生する可能性があると判定されればステップS14へ進み、赤目発生の可能性がないと判定されればステップS17へ進む。ステップS14では選択された駒の画像について赤目修正画像処理を行う。

【0014】ステップS14の赤目修正画像処理では赤目現象が発生している眼の領域を抽出し、その領域を黒色に変換する。具体的には、例えば、周知の画像処理により選択された駒の画像の中から眼の領域を抽出し赤目修正領域をn行m列のマトリクス領域として決定する。そして、赤目修正領域が決定されたら、1行1列の画素から画像を1行ずつ走査し、赤色が検出された画素を黒に変換する。眼を抽出するにあたっては、例えば、白色および黒色の領域の配置および形状等を検出し、これに基づいて眼の領域を抽出することができる。撮影距離が

一定値以下の場合に限って赤目修正画像処理を行うようにし、撮影距離が一定値以上の場合には人物撮影であっても赤目が目立たないので、眼の領域の抽出を行わないようにしてもよい。

【0015】また、赤目修正処理に先立ち、操作者が修正領域を指定できるようにしてもよい。例えば、液晶モニタ6で画像を表示した状態において操作者がペン入力等で眼の部分を含むような領域を指定できるように構成し、指定された領域について上述の抽出処理および色の変換処理を行うようにすればよい。修正領域を予め指定することにより不必要的部分についての抽出処理等が不要になるので、赤目修正処理の時間を短縮できる。

【0016】続いてステップS15ではメモリ4に記録された画像データを赤目修正処理後の画像データに書き換え、ステップS16へ進む。ステップS16では赤目修正処理を行ったことを示す修正フラグを修正した駒と関連付けてメモリ4に記録し、ステップS17へ進む。なお、上述のように、修正フラグの有無はステップS12において検出される。ステップS17では選択された画像を液晶モニタ6に再生表示するとともに、その画像が伝送装置5を介して出力される。ここでは、赤目修正がすでに行われている場合には修正後の画像が再生される。

【0017】このように、本実施の形態では赤目修正を行った駒については修正フラグをセットし(ステップS16)、修正フラグがセットされた画像については赤目修正画像処理を行わないようとしている(ステップS12)。また、赤目発生の可能性がない画像については、最初から赤目修正画像処理を行わない(ステップS13)。このため、不必要的赤目修正画像処理の動作を避けることができ、撮影画像が迅速に再生される。

【0018】赤目修正画像処理を行うタイミングは画像再生時に限定されない。

【0019】

【発明の効果】請求項1に記載の発明によれば、記録手段に修正がされた旨の記録がある場合には、修正済の記録がある撮影駒について修正手段による再度の修正を行わないようにしたので、不必要的修正動作を回避することができる。請求項2に記載の発明によれば、赤目発生条件検知手段により赤目現象が発生しうる撮影条件での撮影であることが検知された撮影駒であって、記録手段に修正済の記録がされていない撮影駒のみについて修正手段による修正を行うようにしたので、不必要的修正動作を回避することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施の形態の赤目修正機能付きカメラシステムの構成を示すブロック図。

【図2】本実施の形態の赤目修正機能付きカメラシステムの画像記録動作を示すフローチャート。

【図3】画像の各種情報の記録方法を示す図。

【図4】本実施の形態の赤目修正機能付きカメラシステムの画像再生動作を示すフローチャート。

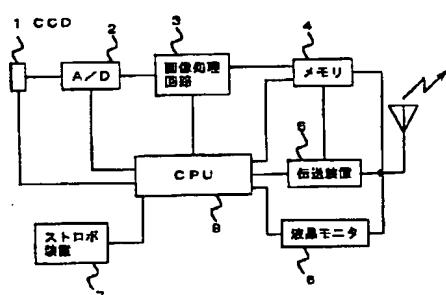
【符号の説明】

3 画像処理回路
4 メモリ
8 中央演算処理装置

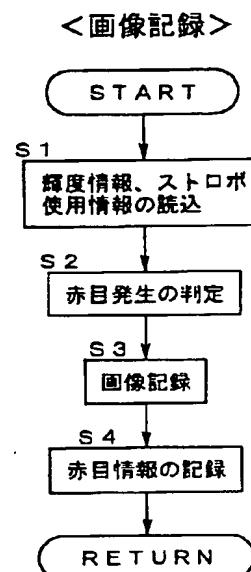
【図1】

【図2】

【図1】



【図2】



【図3】

【図3】

001A	画像情報
001B	赤目発生情報
⋮	⋮

【図4】

【図4】 <画像再生>

